

から見た流氷と知床半島の山並み

オホー ツクの流氷とくらし

ら禁漁期間を設定し、豊かで安定した水産資源 す漁師たちは、流氷の恩恵に頼るだけでなく、自 産のカキなどの生産を支えています。沿岸に暮ら ク海沿岸では、流氷が豊かな海の環境を生み出 農林水産業が地域の主要産業であるオホーツ 世界的ブランドとなったホタテやサロマ湖特

> って漁師たちは安定した生活を送っています。 ます。さらに、植樹や河畔林の造成を漁師とその ぐため、養殖総量の規制と環境監視を続けてい ホタテやカキの過剰養殖による環境の悪化を防 の利用を実践しています。また、サロマ湖内では 恵みと自らの持続的漁業に対する取り組みによ 家族が行っています。 このような流氷のもたらす

オホー ツクの流氷観光

約半分)がこの地域にやってきます。 156万人です。特に2月と3月だけで115万 は820万人で、そのうち冬期(12月~3月)は 稚内市まで合計4あり、約18万2千人が生活し ています。 平成14年のこの地域への観光客入込数 ホーツク海沿岸に位置する市町村は羅臼町から 人、1日当たりにすると2万人(網走市の人口の 日本で唯一流氷を間近に見ることができるオ

自然を楽しむ

の高い自然景観です。 分豊かで水産資源に恵まれた海域環境、原始性 め尽くす流氷と、その流氷によって育まれる栄養

です。2004年1月には日本政府により、 息し、羅臼岳、硫黄山など火山性の山がつらなっ 床の世界遺産推薦書がユネスコ世界遺産センター み陸上から人は近寄ることができない秘境の地 オジロワシ、シマフクロウなどの絶滅危ぐ種が生 に提出されました。 ています。特に半島先端は崖が直接海に落ち込 知床半島の北半分を占める知床国立公園は

園は国内最大規模の原生花園で、自然と共存し 700 haの規模で広がる常呂町のワッカ原生花 植物が群落を作る原生花園となっています。 線に沿うようにハマナス、スカシユリなどの海浜 ど7つの海跡湖とその湖畔に咲く花、そして海岸 に、オホーツク海とサロマ湖に挟まれた砂州に約 網走国定公園は、サロマ湖、能取湖、網走湖な

> 保存され、北海道 遺産にもなっていま 手によって大切に 師や地域の人々の ながら生活する漁

〃トッカリ〃)や す。オホーツク海 ラシ (アイヌ語で 動物といえばアザ 岸に姿をあらわす オオワシが有名で もにオホー ツ海沿 にはゴマフアザラシ、ワモンアザラシ、クラカケア 冬季、流氷とと

サロマ湖に現れたゴマフアザラシの大群

姿を現すのも珍しいことではありません。

ザラシなどが生息していますが、彼らは流氷とと

は北極圏のほうへ帰っていきます。 サロマ湖内に もに沿岸にやってきて、子供を生み育てて、春に

は、エサの魚を追って数百頭のアザラシの大群が

オホーック海沿岸の特徴は、冬季に沿岸を埋

せん。 目の前で厚い氷盤が割れて四方へ散らばつ 進むその迫力は、乗船してみなければわかりま ーろらは年間20万人以上、ガリンコ号は年間4万 流氷や氷・雪で遊ぶ おーろら 、 と、紋別港のガリンコ号です。 お 人以上の乗客を乗せています。氷を砕きながら **人気を集めているのが、網走港の流氷観光砕氷船** 流氷を見ることそのものが地域の観光として

ポーツを楽しむ、住民参加型イベントが多数催さ も雪や氷を遊び道具にしたり、凍った海面上でス ばしりオホーツク流氷まつり」や「もんべつ流氷ま つり」は全国的にも有名ですが、その他の地域で イベントやお祭りがたくさん行われています。「あ み、寒さを楽しむ、冬季間にしかできない多彩な い人はまずいません。(私も何度も叫びました) ていく様子に、思わず「おー!」と歓声を上げな オホーツク海沿岸の市町村では、流氷に親し

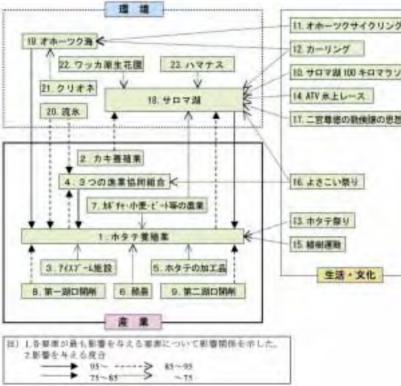


っしり接岸した流氷と漁港に上架された漁船



氷上パラセーリング。 サロマ町の民宿やユ ·スホステルで実施 しています。

サロマ湖地区の環境社会システム



んでいるようにみえても、帰路にはたくさんのカ

四輪バギー、歩くスキーなどができます。また、凍 は水揚げにスノーモー ビルで向かいます。 一見游 氷した水面下でカキの蓄養をしていますが、漁師 す。ホームステイをしながら、この地域でしかでき らの修学旅行生を受け入れているところがありま 都市と農山漁村との交流を活発化しよう 流氷観光の発展に向けて った湖面や海面での釣り(チカやキュウリウオ)も 氷した湖面上でパラセーリング、スノーモービル ない遊びや漁業を体験します。 サロマ湖内では結 人気の一つで、毎年多くの釣り客がやってきます。 オホーック海沿岸の市町村では、冬季に本州か

れています。冬の遊びが盛んなサロマ湖では、結

水産物の地産地消と観光をリンクしよう

望できる展望台、夏季でも流氷に触れ寒さを体 験できる北海道立オホーック流氷科学センター 品の直売を行う物産館のほか、オホーック海を一 ら猿払まで)あり、それぞれ個性的です。 農水産 ほとんどの漁業協同組合には直売場があり、そ 温泉などが併設されています。また、沿岸にある オホーツク海沿岸には道の駅が10カ所(羅臼か

漁船は上架され、漁師 盛んになる時期は、流 ちょうど流氷観光が 月から12月までです。 生ホタテがあるのは4 オホーックで殻つきの することができます。 ません。冬季にオホー は出漁することができ 港湾が結氷するので、 氷が接岸したり漁港・ トでも水産物を購入 の場でもインターネッ 学旅行に限らず今後発展する可能性は大いにあ はここしかないのですから、このような交流が修 けとなり交流が始まることが多いのですが、流氷 に触れ、冬の暮らしを経験できる地域は日本で しょう。 現実には個人レベルの付き合いがきっか キを運んでくる漁師の姿に驚かない人はいないで 供することができるのです。

これからの観光は要素とシステムづくりが鍵

域を構成する要素の関連を基盤として四季折々 の要素から影響を受け、また産業要素も環境や 湖地区を構成する要素とその影響関係を矢印で 連を環境社会システムといっています。 図はサロマ え、文化を形成してきました。このような環境、 り、その産業が地域で生活する人の暮らしを支 その自然と環境の維持の上に成り立つ産業があ 沿岸は、流氷をはじめとする豊かな自然があり、 値観が多様化するなかで、観光の目的や観光地 能にする素地があります。 ます。オホーック海沿岸にはそのような観光を可 したり楽しむ観光のシステムづくりが、リピー に変化する環境やそこでの暮らしや産業を経験 生活要素から影響を受けています。このような地 カキ養殖、農業などの産業要素、そして生活文化 表しています。サロマ湖という環境要素はホタテ 産業、生活や文化などを形成する要素の相互関 は選別されるようになるでしょう。 オホーツク海 た。 しかし、生活や休暇の過ごし方についての価 トで観光地を周るパッケージ旅行を経験しまし さまざまですが、これまで多くの方がピンポイン を呼ぶこれからの観光の姿であると考えてい 観光の楽しみは当地の食事、温泉、歴史など

な相乗効果が生まれるはずです。 魅力が2倍、3倍、・・倍と大きくなり、いろいろ これらの要素を有機的に結びつけると地域の 有限会社 マリンプランニング

から取り出して、殼つきの生ホタテを観光客に提 味も変わりません。必要な量をその都度海水中 い)で保存されることがわかりました。 もちろん は仮死状態(生きているけど成長はほとんどしな た。マイナス2 くらいの海水中に入れたホタテ

代表取締役

古屋